

第100期 株主通信

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで



東亜合成株式会社 証券コード 4045

01 株主の皆様へ

03 セグメント別概況

05 特集1：新工場最前線

～東亜合成グループの次の一歩へ～

07 特集2：水インフラを支える

東亜合成グループの特色ある製品群

09 トピックス



グループ経営の一層の効率化と
迅速化を図りながら、
収益基盤を強固にする投資を着実に
進めてまいります。

代表取締役社長 橋本 太

- ポイント
- 需給バランスの悪化と国内外市況の低迷により減収減益に
 - 平成25年12月期の売上高・営業利益・当期純利益は、当期とほぼ同水準を予想
 - 当期の年間配当金は、前期と同額の1株当たり10円を実施

Q.

当期
(平成24年12月期)の
概況について
お聞かせください。

A. 当期におけるわが国経済は、長引く欧州経済の低迷に加え、中国をはじめとするアジア経済の減速を受けて外需が落ち込むとともに、復興需要も力強さを欠き、長引く円高、電力料金の上昇など、厳しい事業環境のうちに推移しました。

このような中、当社グループは、高付加価値製品の拡販および市場開拓、徹底したコストの削減、原燃料価格の上昇に対応した製品価格の是正等に努めましたが、需給バランスの悪化とそれに伴う国内外市況の低迷により、収益が圧迫される状況が続きました。

この結果、当期の売上高は1,482億3百万円(前期比3.1%減収)、営業利益は145億8千3百万円(前期比15.9%減益)、経常利益は152億5千万円(前期比13.2%減益)、当期純利益は96億9千9百万円(前期比25.4%減益)となりました。

Q.

次期の
見通しについて
お聞かせください。

A. 今後の見通しにつきましては、政権交代とそれに続く日銀の金融緩和を受け、た円高修正により、輸出企業を中心に業績改善への期待感があるものの、欧州をはじめとする世界経済は力強い回復の兆しが見えず、円安を背景とした原燃料価格の上昇も見込まれるなど、依然として厳しい事業環境が続くものと予想されます。このような中、当社グループとしましては、引き続き高付加価値製品の拡販とコスト削減に努め、収益を確保してまいります。

平成25年12月期における売上高、営業利益および当期純利益は、当期（平成24年12月期）とほぼ同水準になると予想しています。

Q.

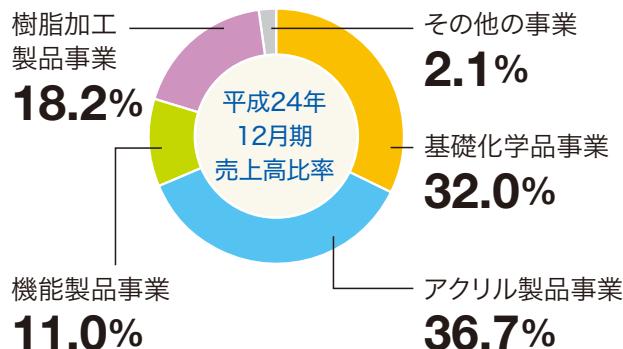
株主の皆様へ
メッセージを
願います。

A. 次期（平成25年12月期）は、中期経営計画“ALL TOA 2013”の最終年度として、3つの成長戦略、「コア製品の収益拡大」「高付加価値製品の加速的成長」「新製品、新事業の創出」を着実に遂行し、次のステージへとつなげていく重要な年になると認識しています。平成25年1月からは、鶴見曹達（株）と日本純薬（株）を吸収合併し、グループ内において、より効率的で迅速な事業運営を可能にする体制を整えました。また、大分ケミカル（株）におけるアクリル酸プラントの新設をはじめ、将来の成長に向けた布石として、グループの収益基盤をより強固なものとする投資を着実に進めております。今後も引き続き、企業価値の向上に向けて、グループ体となって取り組んでまいります。

なお、利益配分につきましては、当期の業績、今後の事業展開等を総合的に勘案し、安定配当に努めることを基本方針とし、当期の1株当たり年間配当金は10円（期末配当金は5円）とさせていただきます。

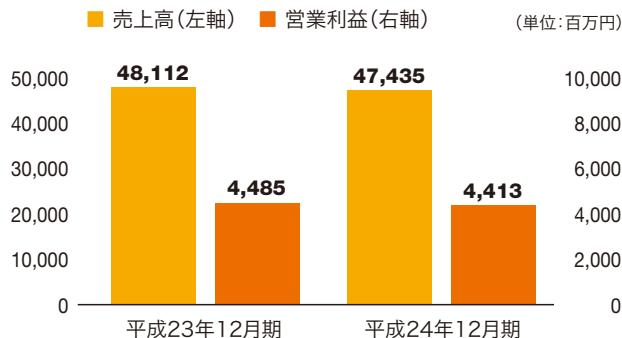
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別売上高比率



基礎化学品事業

苛性ソーダおよび無機塩化物は、原燃料価格の上昇に応じた製品価格の是正に努めたものの、全般的な需要の低迷を受けて販売数量が減少し、低調に推移しました。無機高純度品は、半導体向けの需要が低迷したものの、期後半から輸出を中心に一部需要が回復し、通期としては堅調に推移しました。硫酸は、前期末に製品価格を是正したものの、全般的に需要が落ち込み販売数量が減少したため、前期並みで推移しました。



セグメント別売上高・営業利益

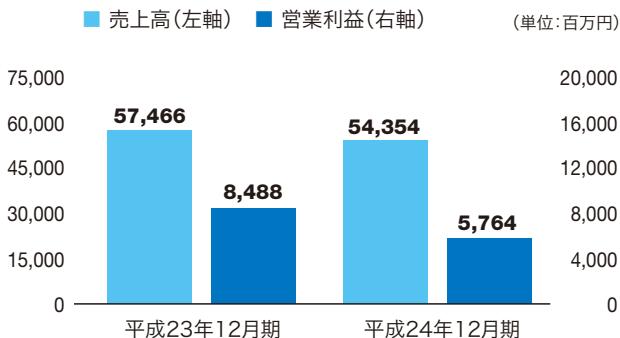
(平成24年12月期)

(百万円)

	売上高	営業利益
基礎化学品事業	47,435	4,413
アクリル製品事業	54,354	5,764
機能製品事業	16,350	3,011
樹脂加工製品事業	26,978	1,279
その他の事業	3,084	30

アクリル製品事業

アクリル酸エステルは、期終盤に国内向けを中心に販売数量が回復したものの、アジアにおける製品市況の低迷を受けて、低調に推移しました。アクリル系ポリマーは、全般的に底堅い需要に支えられ堅調に推移しました。高分子凝集剤は、官需を中心に販売価格が低迷し低調に推移しました。光硬化型樹脂「アロニックス」は、汎用品の需要が弱含むとともに、液晶分野向けの販売数量が減少し低調に推移しました。



セグメント別主要製品

● 基礎化学品事業

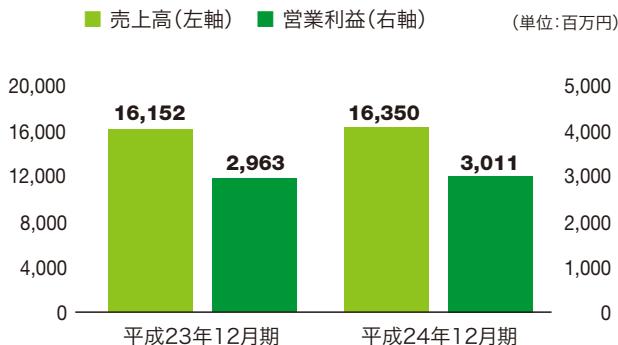
苛性ソーダ、苛性カリ、液体塩素・塩酸などの無機塩化物、無機高純度品、硫酸、工業用ガス等

● アクリル製品事業

アクリル酸、アクリル酸エステル、アクリル系ポリマー、高分子凝集剤、光硬化型樹脂等

機能製品事業

接着剤は、一般用の需要が底堅く推移するとともに、工業用も携帯端末向けを中心とした需要に支えられ堅調に推移しました。建築・土木製品は、建築補修材の販売数量が期後半に回復し、前期並みで推移しました。無機機能材料は、消臭剤、防カビ剤の需要が堅調だったものの、抗菌剤の販売数量が減少し低調に推移しました。エレクトロニクス材料は、シリコン系高純度ガスの販売価格が低迷し低調に推移しました。



● 機能製品事業

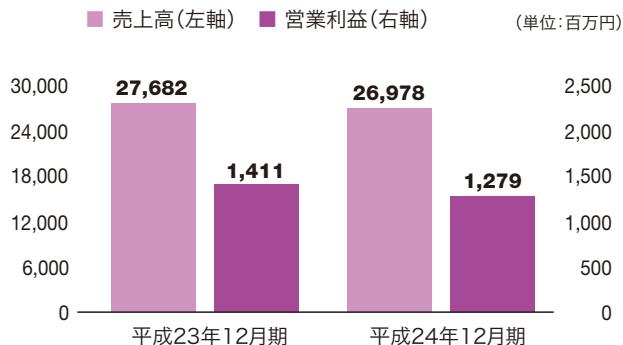
接着剤、建築・土木製品、無機機能材料、エレクトロニクス材料等

● 樹脂加工製品事業

管工機材製品、ライフサポート製品、エラストマーコンパウンド

樹脂加工製品事業

管工機材製品は、期後半に販売数量が回復したものの、期前半の落ち込みを補えず、低調に推移しました。ライフサポート製品は、介護用品が前期並みで推移しましたが、日用品の販売数量が減少し低調に推移しました。エラストマーコンパウンドは、販売数量が減少し低調に推移しました。



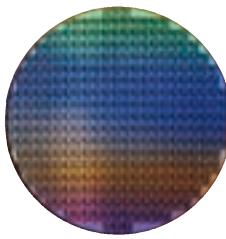
本年1月から鶴見曹達と日本純薬は東亜合成との合併により、それぞれ横浜工場、広野工場として新たなスタートを切りました。

横浜工場

主要製品



紙やせっけんをはじめ、さまざまな産業の基礎原料となる苛性ソーダ



半導体シリコンウエハーの洗浄に使われる高純度液化塩化水素

横浜工場 首都圏のライフラインを支える製品群

京浜工業地帯の一角にあり、旧鶴見曹達(株)から数えて80年近くの歴史を有する横浜工場。首都圏の大消費地に向けて苛性ソーダや次亜塩素酸ソーダなど、ライフラインを支える製品を安定的に供給することで、わが国の産業発展に貢献してきました。また、得意とする高純度・高品位の分野では、日本で最初に製造販売を開始した高純度液化塩化水素をはじめ、最先端の産業分野を支える特色ある製品を数多く開発してきました。



広野工場



広野工場 身の回りの生活を支えるアクリルポリマー

福島県浜通り南部に位置し、グループの中でも特色あるアクリル製品を製造する広野工場。ここから生み出される粉末状のアクリルポリマーは、工業用途のほかに化粧品や医薬品などに使用されています。水に添加することでより高い粘性(粘り)を与える効果があるので、乳液・クリーム・練り歯磨きの粘度調整用や、湿布・冷却シートなどのゼリー状物質の原料として、私たちの生活の身近なところで幅広く利用されています。

主要製品



冷却シート用ゼリーの原料



化粧クリーム増粘剤

上水から下水まで、水処理サイクルの
さまざまな場面で活躍する
東亜合成グループの製品群をご紹介します。

次亜塩素酸 ソーダ

水の殺菌・滅菌などに使用される次亜塩素酸ソーダ。中でも不純分の少ない高品位グレードは、水道水やプールなど、高い安全性が求められる分野に利用されています。近年、より安全・安心な水を求める声が高まり、水道水質の安全基準が強化される中、浄水時に使う殺菌剤に含まれる不純物量の規制値も強化されています。東亜合成グループは、これに対応するため、塩素酸や臭素酸といった不純物の含有を極力抑えた特級グレードを拡大しています。これからも、次亜塩素酸ソーダの高品位化を促進し、水の安全・安心に貢献していきます。



安心・安全な水の提供に貢献

凝集剤

下水処理場で浄化される生活排水は、浄化過程で水質汚濁の原因となる大量の汚泥が発生します。東亜合成グループが長年の販売実績を誇る高分子凝集剤「アロンフロック®」は、汚泥を凝集作用によって集めて固まりにし、排水中に沈めることで、効率よ

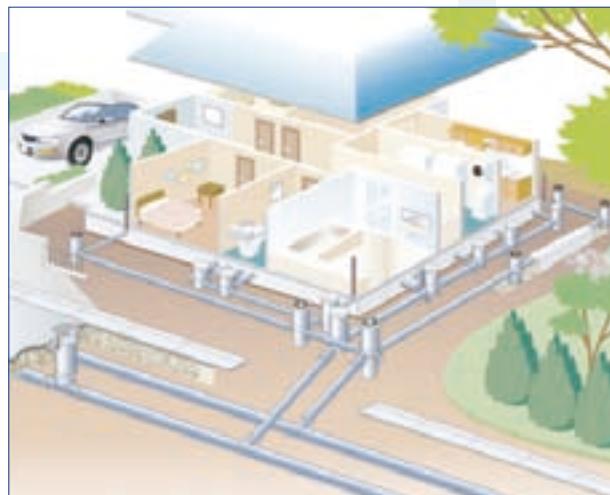


粉末状の高分子凝集剤「アロンフロック®」



廃水処理設備で利用される高分子凝集剤

く水と分離させることを可能にした薬剤です。排水処理量を衛生的に減量し、処分できる効果もあり、下水処理場はもちろん、製紙、食品加工といった工場廃水の分野でも活躍しています。お客様のニーズに応じた豊富なラインアップを提供するとともに、長年蓄積した応用技術に基づく技術サービスを提供しています。



建物の排水に貢献する管路システム

管材



マス、継手など多種多様な製品群

東亜合成グループで管材事業を担うアロン化成(株)は、昭和26年に国内で初めて硬質塩化ビニルパイプの開発に成功して以来、半世紀にわたって豊富な実績を積み重ねてきました。中でも、パイプとパイプをつなぎ合わせる「継手」や、パイプが合流する要所に点検清掃のために設置される「マス」の分野では、パイオニアとして市場を開拓し、下水道の普及に大きく貢献してきました。今後も、あらゆる施設の排水、雨水の処理に効果的な管路システムを提案するとともに、給水製品も拡充し、上下水道分野で生活環境の向上に貢献していきます。

「アロンアルファ® EXTRAゼリー状」の新CM ～ソファでブランコ篇～



①ソファが空を飛ぶ??



④「アロンアルファ® EXTRAゼリー状」新発売



②ソファとワイヤーを瞬間接着



⑤YouTubeで公開中

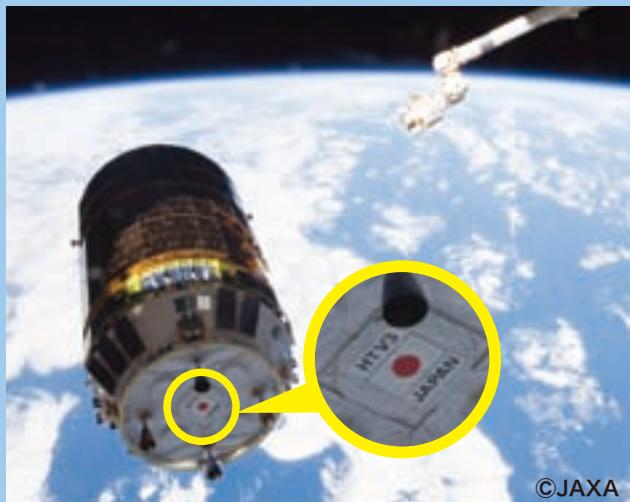


③ソファが宙に浮いた!

YouTube <http://youtu.be/mdmSAzCFwp4>

「アロンアルファ® EXTRAゼリー状」を用いて、ソファとハイテンションな4人組の総重量約500kgをわずか3秒で持ち上げ、さらにブランコにして楽しむという体当たりの挑戦。これまでの強い・速いにFUN(楽しみ)の要素を加えたアロンアルファ®の新CMをYouTubeでお楽しみください。

宇宙機の長寿命化に広く貢献する光硬化型SQシリーズ



©JAXA

JAXAの「こうのとり」3号機の日の丸マークを保護

宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同で開発を進めてきた「光硬化型SQシリーズ」は、宇宙機にとって材料劣化の原因となる放射線、紫外線などへの耐性を高めたコーティング材料です。このたび、その効果が評価され、宇宙ステーション補給機「こうのとり」3号機に貼りつけられた日の丸マークの保護コーティング技術に活用されました。柔軟性や加工性の良さといった有機的な特長と、耐熱性や硬さなどの無機的な特長を併せ持つ有機・無機ハイブリッド材料「光硬化型SQシリーズ」は、宇宙機の長寿命化に広く貢献していきます。

接着剤の生産拠点を高岡工場へ集約



接着剤の主力工場として生まれ変わる高岡工場

東亜合成グループの接着剤は、「アロンアルファ®」ブランドで広く知られる一般用にとどまらず、電子材料や自動車、建築といった工業用分野でも幅広く活躍しています。このたび、グループにおける接着剤の生産拠点を高岡工場に集約し、一体的に生産することで、生産効率の向上を図るとともに、新製品開発の強化につなげていく体制を整えました。また、今回の集約に併せて、スマートフォンや自動車部品などの分野で需要が伸びている一部の高性能接着剤についても、増産体制を確保していきます。

東亜合成グループは、今後も引き続き、総合接着剤メーカーとしての基盤を強化してまいります。

連結財務諸表(要旨)

貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 (平成23年12月31日)	当期末 (平成24年12月31日)	増減額
流動資産	87,757	93,284	5,527
固定資産	83,288	88,166	4,878
① 資産合計	171,046	181,451	10,405
流動負債	29,179	33,789	4,609
固定負債	14,090	11,421	△ 2,668
負債合計	43,269	45,211	1,941
純資産	127,776	136,240	8,464
負債純資産合計	171,046	181,451	10,405

損益計算書

(単位:百万円)

	前期 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当期 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	増減額
売上高	153,007	148,203	△ 4,804
売上総利益	45,344	39,956	△ 5,387
販売費及び一般管理費	28,006	25,372	△ 2,633
② 営業利益	17,338	14,583	△ 2,754
経常利益	17,569	15,250	△ 2,318
特別損益	1,423	△ 732	△ 2,155
当期純利益	13,000	9,699	△ 3,300

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当期 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	17,828	23,293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,041	△ 15,041
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,320	△ 3,377
現金及び現金同等物の期末残高	23,992	29,529

POINT ①

資産合計は、「未収還付法人税等」が減少したものの、「有価証券」や「固定資産」が増加したため、前連結会計年度末に比べ104億5百万円、6.1%増加の1,814億5千1百万円となりました。

POINT ②

総じて需要が弱く、製品価格、販売数量が下落する一方、原燃料価格が上昇するなど収益が圧迫される状況が続いた結果、営業利益は前年同期に比べ27億5千4百万円減少し、145億8千3百万円となりました。

POINT ③

固定資産の取得による支出が増加したため、投資活動によるキャッシュ・フローは、前期に比べ支出が増加し、150億4千1百万円の支出となりました。

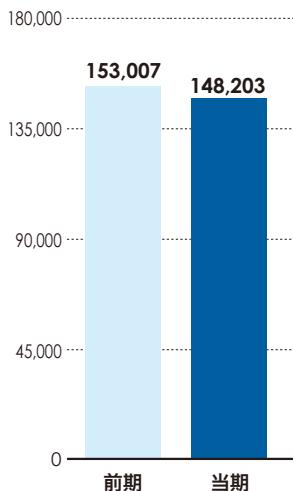
▶ 配当について

当期の業績、今後の事業展開、業績の進展等を総合的に勘案し、当期の期末配当金は1株当たり5円とし、中間配当金5円とあわせて、1株当たりの年間配当金は10円となります。

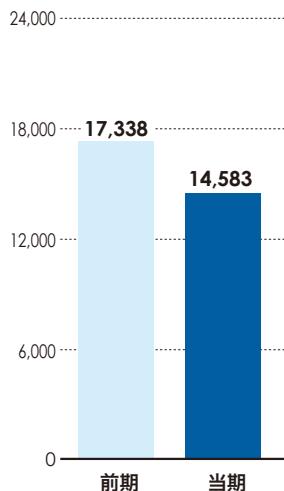
平成24年12月期(当期)

(単位:百万円)

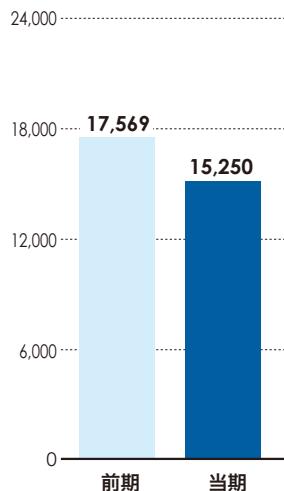
売上高



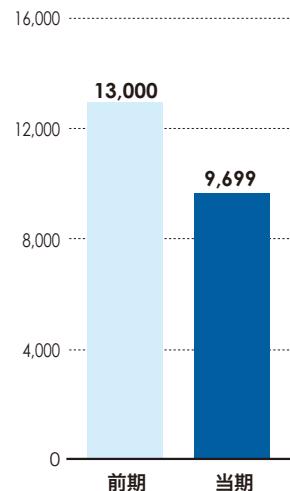
営業利益



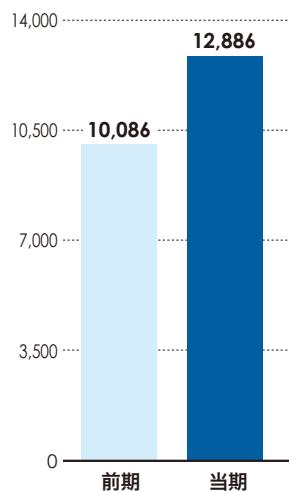
経常利益



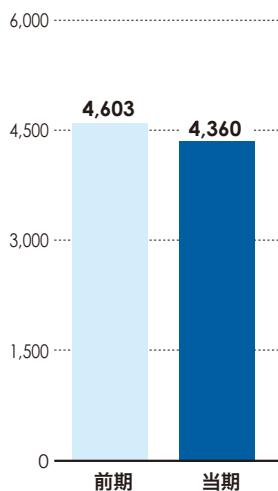
当期純利益



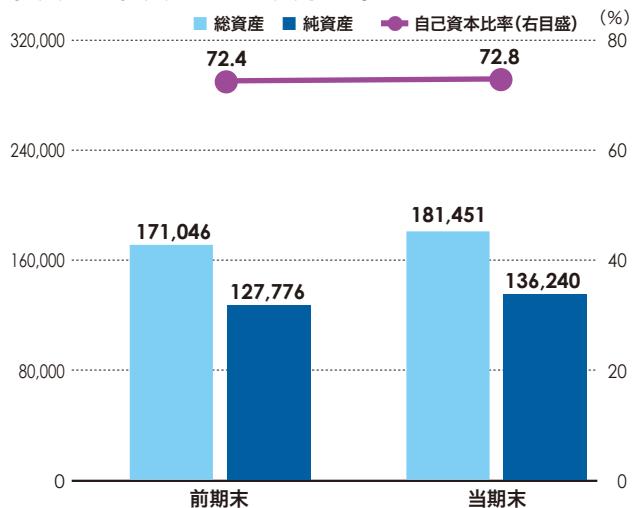
設備投資額



研究開発費



総資産・純資産・自己資本比率



アンケート結果のご報告

「第100期中間株主通信」でお願いしましたアンケートの結果を下記のとおりご報告いたします。
ご協力いただきました皆様に御礼申し上げますとともに、皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営に反映させてまいります。

株主の皆様からのご意見・ご要望

● 環境に配慮した企業にしてほしい。

当社グループは、化学物質の排出量削減や廃棄物の削減など、環境負荷の低減を継続的なテーマとし、改善に努めています。環境保全活動は、生産工程の無駄をなくし生産性の向上にもつながることから、競争力強化の取り組みとしても改善を進めています。当社グループの環境保全への取り組みは、毎年発行する「CSR報告書」に詳しく記載されています。ぜひご覧ください。（「CSR報告書」は当社ホームページからご覧いただけます。）

● 第2のアロンアルファ®の登場を期待しています。

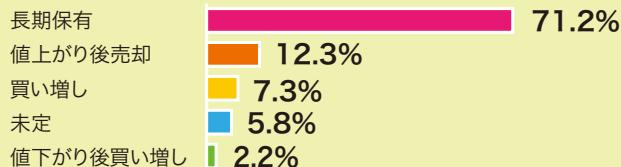
当社グループは、市況や景気に左右されない高付加価値な最終製品の開発、販売にも注力しています。マンションなど建物の外壁を雨水などによる劣化から守り建物の長寿命化を実現する「アロン建材シリーズ」や、ポータブルトイレに代表される介護用品ブランド「安寿」など、最終製品の分野においても、消費者ニーズを捉えた開発を促進するとともに、ブランド認知度の向上を図りながら、収益力の向上に努めてまいります。

■ アンケート結果

当社株式の保有期間はどれくらいですか？



当社の株式に対してどのような方針をお持ちですか？(上位回答のみ記載)

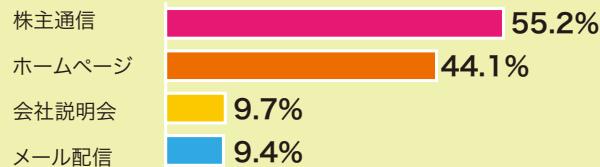


当社の株式に対する方針を決定される際、特に重視するものをお知らせください。(上位回答のみ記載)



※複数回答可のため、比率合計は100%を超えています。

当社のIR活動について、特に充実を希望されることは何ですか？(上位回答のみ記載)



※複数回答可のため、比率合計は100%を超えています。

会社概要

本店所在地／〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号

電話 (03)3597-7215(代表)

設立／昭和17年3月31日

資本金／20,886百万円

従業員／連結2,509名

単独 918名

取締役および監査役(平成25年3月28日現在)

代表取締役会長	山寺	炳彦
代表取締役社長	橋本	太
取締役	山田	勝敏
取締役	野村	聡一
取締役	小関	健
取締役	高村	美己志
取締役	中川	和明
取締役	杉浦	伸一
取締役(社外)	滝澤	英一
監査役(常勤)	佐藤	邦雄
監査役(社外)	佐藤	勝
監査役(社外)	三浦	良二
監査役(社外)	原	一夫

株式の状況

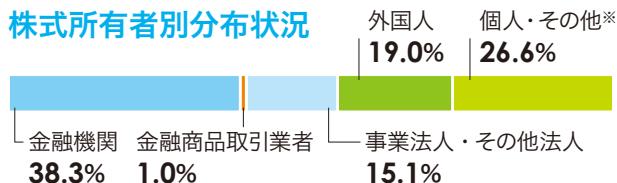
発行可能株式総数	550,000,000株
発行済株式総数	263,992,598株
株主数	23,930名

大株主の状況

株主名	株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,150	5.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,553	4.76
株式会社三井住友銀行	11,636	4.41
東亜合成取引先持株会	7,521	2.85
東亜合成グループ社員持株会	6,282	2.38
株式会社三菱東京UFJ銀行	5,648	2.14
ザバンクオブニューヨークトリーティー ジャステック アカウト	5,113	1.94
農林中央金庫	3,944	1.50
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,815	1.45
三井生命保険株式会社	3,691	1.40

出資比率は、自己株式(368,033株)を控除して計算しております。

株式所有者別分布状況



※「個人・その他」には自己株式が含まれております。

東亜合成グループの主な関係会社

セグメント別	主な関係会社
基礎化学品事業	鶴見曹達(株)※、東亜テクノガス(株)、東亜合成KOREA(株)
アクリル製品事業	大分ケミカル(株)、日本純薬(株)※、トウアゴウセイ・シンガポール・ピーティーイー・リミテッド、台湾東亜合成股份有限公司、東昌化学股份有限公司、張家港東亜迪愛生化学有限公司、MTアクアポリマー(株)
機能製品事業	トウアゴウセイ・アメリカ・インク、東亜合成香港有限公司、東亜合成(珠海)有限公司、アロンエバーグリップ・リミテッド、アロン包装(株)、エルマーズ・アンド・トウアゴウセイ・カンパニー、東亜建装(株)、MTエチレンカーボネート(株)
樹脂加工製品事業	アロン化成(株)、ミクニプラスチック(株)
その他の事業	(株)TGコーポレーション、TOAエンジニアリング(株)、東亜ビジネスアソシエ(株)、東亜興業(株)、東亜物流(株)、北陸東亜物流(株)、四国東亜物流(株)

※当社は、平成25年1月1日付で鶴見曹達株式会社および日本純薬株式会社を吸収合併しております。

株主メモ

- 事業年度…………… 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会… 毎年3月に開催
- 基準日 ……………定時株主総会
期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年 6月30日
- 公告の方法 ……電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない
事故その他のやむを得ない事由が生じた
ときは、日本経済新聞(東京)に掲載します。
公告掲載URL
(<http://www.toagosei.co.jp/>)
- 株主名簿管理人……………東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関……………東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先……………〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店
および全国各支店で行っております。

ご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました
株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行
株式会社にお申し出ください。

各種手続用紙のご請求について(特別口座の株主様)

以下の手続用紙のご請求については、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社のインターネットで24時間お受けしております。

■ホームページアドレス

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- ・ 口座振替申請書
- ・ 単元未満株式買取請求書
- ・ 配当金振込指定書(特別口座用)
- ・ 変更届(住所・氏名・届出印等)

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出
ください。

「配当金計算書」について

配当金のお支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税
特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねており、確定申
告を行う際の添付資料としてご使用いただくことができます。確
定申告を行われる株主様は、大切に保管してください。